

広島魚商協同組合 青年部



HIROSHIMA "UOSHO"
COOPERATIVE SOCIETY

本青年部は広島魚商協同組合に関する事項について、広島魚商協同組合役員と協力し合い部員相互の親睦をはかり、魚食普及と市場繁栄に貢献することを目的とする。つまり、分かりやすく言うと... 街の魚屋同志で勉強し、切磋琢磨しながら広島の水産業界を盛り上げていこうと、定例で経営や人材育成の勉強会を開いている部です。

「商い」は人間業だ。人の道を求めて 少年はいま歩き始めた

特別会報 vol.003

近日開催イベント

近日中に開催する組合のイベント情報を紹介いたします
興味のある方は広島魚商協同組合へお問い合わせください

・業界関連イベント (広島市)



「フグ処理者講習」

講習会 - 11/7(金) 9:20 ~ 16:30
(受付) 9:00~

- ・開催場所 市保健所 3階会議室他
- ・申込期間 10月14日~10月24日まで
- ・定員 40名

※受講資格や各種申込書について、詳しくは広島魚商協同組合へお尋ねください。

・青年部イベント

日商簿記3級 取得サポート

日程：11月30日(日) 13:00~ 説明会

簿記は会社の活動とその成果を明らかにすることと、経営実態を把握し勉強することによって、その数値に基づいた今後の舵取り(経営計画)を行ってけるセンスが磨ける技術です。

全水商連 青年部大会in福山

日程：11月2,3日(日,月) 福山にて

全国水産物商業協同組合連合会主催の青年部大会が翌月に開催されます。

全国の水産物小売商が参加し、成功事例や実例を基に、皆で学ぶ研修会ですので、ぜひご参加下さい。

現在、広島魚商協同組合青年部は、経営活動を支援する部会を積極的に進めています。皆さんのアイデアを取り入れ、どなたにも分かりやすい部会を目指しており、近頃では初参加の方も多く参加していただいておりますので、お気軽にご参加ください。

きれいにしたい... みんなの海じゃけえ

漁港クリーン作戦 清掃活動 十月八日(水)

辺りはすっかり秋へと変わり、魚のおいしい季節となってきました。紅葉も美しいこの季節、日々私たちが働く中央市場周辺の景色はどうでしょう?
広島魚商協同組合青年部有志者の提案から、漁港をきれいにしようというボランティア活動を、今回から初めてスタートしました。

中央市場西門からスタートし、桟橋と岸壁に2時間かけて小さなゴミから大きなゴミまで、隅々まで拾って歩くことにより、気づかされる部分が多くなりました。タバコの吸殻、空き缶、古くなった釣り糸、弁当ガラ。大きなものになると、魚網、タイヤ、洗濯機、冷蔵庫など、処分しきれないものも多数ありました。



また、早朝にも関わらず、共に参加頂き、道具の貸出や拾ったゴミの分別を引き受け、御協力していただいた市職員の津村様大変感謝いたします。

海の恵みを糧に働いている私たちだからこそ、先頭に立つてやらなければならぬことがある。と、考えさせられた貴重な1日でした。

これらのゴミを捨てていく人を責めても解決にはならないと考え、ゴミをひとつ拾うことよってきれいになり、捨てる人が少なくなってくれば...と心から願うばかりです。

てんびんの詩 第2部 自立編 十月四日(土)

2時間半にも及ぶ大作で、その翌日にはお尻が大変なことになったこともまだ記憶に新しい今月4日、午後7時より上映会を開催しました。
今回の「てんびんの詩」は戦後初めての日韓合作映画で、それまで長く閉ざされていた日本と韓国の文化交流の最初の架け橋として作られました。
人種や国境に関係なく、多くの困難を乗り越え、お客様に感謝される喜びを学んだ気がします。



*てんびんの詩 あらすじ

主人公、近藤大作は、鍋蓋行商をやりとげた後、一年遅れて憧れの八幡商業学校に入学した。しかし、商人としての実務を少しでも会得させようと願う父の方針で、塩踏み奉公(実務見習い)をしながらと言う厳しい勉強の道であった。

当時、八商の大きな行事として海外研修旅行があった。大作はその費用を自力で捻出する計画を立てて実行にうつした。だが、あたかもその時代は(昭和初期)世界的な経済不況の波が押し寄せ、計画は思うようには進まず、在日朝鮮人(現在の韓国)金さんのことで、学友小森とも行商先で喧嘩別れをしてしまう。旅行の費用は「家に助けてもらえ」と学友達が言うほど大作は苦しんでいた。

自ら計画をやりぬこうとする大作は、ある日、金さんの言葉から行商のヒントを得た。そして大きく成長した小森との新たな友情。ついに朝鮮行きの道を切り開いた大作は、自分を見守り続けてくれた周囲の人々の、厳しさの中にある優しさを、かみしめていた。海を渡り国境を越えた大作と小森は、異国の地を歩きはじめた。
しかし、風俗習慣の違い、言葉の難しさ、そして自身の思惑はずれと苦難の道がつづいた。大作は、その苦しみの中から「客とは何か」「売るとはどんな事か」をつかみかけていた...